

研究の概要

1. 研究主題

気づき，考え，行動する子どもの育成

2. 主題設定の理由

(1) 今日の課題から

グローバル化，情報化，技術革新など，子どもたちを取り巻く社会は大きく変化しており，新たな課題も生まれている。子どもたちは，今後そうした社会の変化に対応しながら，自ら新しい知識を身につけ，学んだことを活用して課題を解決するために思考・判断・表現していくこと，また，対話や協働を通じて，多様な他者と共生していくことが求められる。そのためにも，日々の授業や体験活動等を通して，まわりの人と積極的に関わりながらそれぞれのよさに気づき，認め合うとともに，力を合わせて課題を解決し，よりよい社会を築くため行動していこうとする子どもを育てたいと考えた。

(2) 本校の学校教育目標の具現化・児童の実態から

本校は「やさしく すこやかに だれもがまなびあう 安田小学校」を学校教育目標に掲げ，日々の教育活動に取り組んでいる。

さらに，この教育目標の具現化を図るために，次のようなめざす子ども像を設定している。

- 明るく元気な子
- やさしく助け合う子
- よく学び考える子
- すすんでとりくむ子

本校の子どもたちは，素直で明るく子どもらしいよさをもっている。すべきことが明確で具体的であると，それに向かって一生懸命取り組む子どもが多い。一方，我慢強さ，やり抜く力が弱い傾向がある。苦手なことから逃げようとする子，失敗したり壁にぶつかって見通しが持てなかつたりすると意欲が続かず諦めてしまう子どもも多い。

集団での活動時は，高学年がリーダーとなって手本を示し，自ら進んで工夫して取り組む姿が多く見られる。下の学年がその姿に憧れをもち，真似ようとする姿も見られる。しかし，集団の一員としての意識が低く，善悪の判断が自己中心的で友達の思いを十分考えられず，相手を傷つける言動がある子もいる。また，自分の思いを相手に理解できるように伝えることや，友達の気持ちや置かれている状況を想像して場に合った行動や言葉がけをすることがうまくできない子もいる。

そこで，本校の教育活動全体を通じて人権・同和教育を推進し，「自分自身の大切さとともに他の人の大切さを認め，暮らしの中にある差別に気づき，それをなくそうとする子ども」「相手を思いやろうとする子ども」を育てていきたいと考えた。

「学校における人権教育の目標」（文部科学省）に，次のように述べられている。

一人一人の児童生徒がその発達段階に応じ、人権の意義・内容や重要性について理解し、[自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること]ができるようになり、それが様々な場面や状況下での具体的な態度や行動に現れるとともに、人権が尊重される社会づくりに向けた行動につながるようにすることが、人権教育の目標である。

ここに書かれているように、学んだことが理解されるだけでなく、具体的な態度や行動につながるような取組を目指したい。

以上のことから、研究主題を「気づき、考え、行動する子どもの育成」と設定した。

3. 人権・同和教育目標とめざす子ども像

【人権・同和教育目標】

自分自身の大切さとともに他の人の大切さを認め、暮らしの中にある差別に気づき、それをなくそうとする子ども・相手を思いやろうとする子どもを育てる。

【人権・同和教育上のめざす子ども像】

- ア 暮らしの中にある偏見や差別などに気づき、自分たちの問題として解決していこうとする子ども
- イ 自分のよさを知り、自分の将来を切り拓いていこうとする子ども
- ウ 友達の痛みが分かり、相手の立場に立って物事を考え行動する子ども
- エ 自分の思いや考えを表現し互いに伝え合おうとする子ども

4. 研究主題のとらえ（育てたい力）

		学 年	自立（自己） 自尊感情および主体性	共生（他者と共に） 差別の認識・共感的理解
内 的 的	気 づ く ・ 考 え る	低	・自分のよさに気づくことができる。	・友達のよさに気づくことができる。
		中	・自分のよさに気づき、伸ばそうとすることができる。 ・自分の弱い部分にも気づくことができる。	・集団生活を意識することができる。 ・身の回りの問題に気づき、考えることができる。
		高	・自分のよさに気づき、よりよくするためにどうすればよいか考え、弱い部分も含めて自分を認めることができる。	・集団生活におけるいろいろな問題に気づき、解決の方法を考えることができる。
		低	・自分の身の回りのことができる。 ・苦手なことに取り組むことができる。	・誰とでも仲良く遊ぶことができる。 ・人の話を最後まで聞くことができる。

外 的	行 動 す る		<ul style="list-style-type: none"> ・「おかしいな」と思ったことを自分の言葉で言うことができる。 ・自分の気持ちを色々な方法で伝えることができる。 	
		中	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の身の回りのことが、進んでできる。 ・苦手なことでも最後までくじけず取り組むことができる。 ・自分の気持ちを素直に伝えることができる。 ・自分の考えを、自信を持って伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・困ったり悩んだりしている人の気持ちを考え、互いのよさを認めながら、共に活動できる。 ・相手の気持ちを考えながら、最後まで話を聞くことができる。 ・みんなのためによいと思うことを進んでできる。
		高	<ul style="list-style-type: none"> ・集団生活の中での自分の責任を自覚して行動できる。 ・苦手なことや困難にくじけず、最後までやり遂げることができる。 ・自分の気持ちを、適切な言葉や方法で素直に伝えることができる。 ・自分の考えを、適切な言葉や方法で自信を持って伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な立場の人の人権を考え、分け隔てなく接することができる。 ・周りの人に感謝や思いやりの気持ちを持って接することができる。 ・相手の気持ちを受け止めながら、自分の思いを伝えることができる。 ・自分の考えを持ちながら、相手の意図を汲み取り、話を最後まで聞くことができる。 ・相手の願いや事象の意味について、正しく考え、解決に向けて行動できる。

5. 研究仮説

(1) 授業づくり【人権についての教育】(人権に関する知的理解と人権感覚の育成)

道徳科，社会科等の授業において

子どもの「問い」や解決したい気持ちを引き出す題材選定・導入
自分ごととして考え，多様（多角的・多面的）な考えを出すための手立て
学びの自覚化（ふりかえり）を図るための手立て

を工夫すれば，

- ア** 暮らしの中にある偏見や差別などに気づき，自分たちの問題として解決していこうとする子ども
- エ** 自分の思いや考えを表現し互いに伝え合おうとする子ども

が育つであろう。

(2) 人間関係づくり【人権を通じての教育】(人権が尊重される環境づくり)

温かい人間関係を築ける学級づくりや、様々な交流活動を通じた仲間づくり

を計画的・継続的に行えば、

イ 自分のよさを知り、自分の将来を切り拓いていこうとする子ども

ウ 友達の痛みが分かり、相手の立場に立って物事を考え行動する子ども

が育つであろう。

(3) 環境づくり【人権としての教育】(子どもたち一人一人の学びの保障)

子どもたち一人一人の学びを保障し、安心して学校生活を送ること

ができるようにすれば、確かな学力の定着を基盤とした自尊感情が高まり、

イ 自分のよさを知り、自分の将来を切り拓いていこうとする子ども

エ 自分の思いや考えを表現し互いに伝え合おうとする子ども

が育つであろう。

6. 研究の内容

全ての子ども「進路保障」

(1) 授業づくり

【人権についての教育】(人権に関する知的理解と人権感覚の育成)

- 差別解消への意欲と実践を高める人権学習(道徳科、社会科を中心に)
 - ・人権学習や同和問題学習を通じた、差別に対する正しい知識の習得と理解
- 道徳科の充実
 - ・考え、議論する道徳の学習を通じた自己の振り返り
 - ・多様な価値観にふれ、伝え合う場の設定
- 理解教育の取組
 - ・自他についての理解と、よりよく生きる意欲の向上

(2) 人間関係づくり【人権を通じての教育】(人権が尊重される環境づくり)

- 温かい人間関係を築ける学級づくり
 - ・Q Uアンケートの活用
- 様々な交流活動を通じた仲間づくり
 - ・よいところみつけたよカード
 - ・異学年交流
 - ・縦割り班活動
 - ・児童会活動
 - ・J R C活動
 - ・修学旅行、通学合宿、宿泊訓練
 - ・地域との交流活動(福祉施設、交流センター、こども園など)

(3) 環境づくり【人権としての教育】(子どもたち一人一人の学びの保障)

○主体的に学ぶ意欲と態度の育成

- ・学習規律の徹底
- ・基礎・基本の定着
- ・特別な支援を必要とする児童への個別指導

○言語環境の改善

- ・名前の呼び方「〇〇さん」
- ・相手の気持ちを考えた言葉
- ・暗唱ラリー
- ・人権ブックトーク
- ・図書館教育の充実
- ・人権感覚を豊かにする掲示等の工夫(ハートほっとコーナー)

○家庭・地域との連携, 啓発

- ・生活リズムづくり(生活チェックカード)
- ・家庭学習の習慣化(家庭学習の手引き)

(4) 教職員研修

- ・校内研修会
- ・職員会議に合わせたミニ研修
- ・安来市等研修会

(5) 人権月間の取組

※上記(1)～(4)のまとめとして, 1月1ヶ月間を「安田小学校人権月間」とし, 取り組む。

・全校での取組

安田小人権宣言 人権・同和教育公開授業 人権標語づくり
人権集会

・学年での取組

学年で人権にかかわるテーマを決めて取り組み, 人権集会で発表する。

・委員会での取組